



国臨協関信

H.P: <http://www.alpha-net.ne.jp/users2/kansinko/>

平成20年 8 月

事務局 〒162-0052 東京都新宿区戸山1-21-1
国立国際医療センター戸山病院臨床検査部内
発行者 三浦隆雄
編集委員 松林 守・深澤文子・小松久人
竹田信邦
印刷所 東洋印刷株式会社
☎03-3352-7443

第36回 国臨協関信支部学会

日時：平成20年 9 月6日(土) 場所：国立国際医療センター 戸山病院

特別講演

わが国の医療政策の 動向と臨床検査技師に 期待するもの

独立行政法人国立病院機構本部

医療部長 山 本 光 昭 先生



講師プロフィール

【略 歴】

昭和35年 3 月11日 神奈川県横浜市生まれ。
兵庫県尼崎市育ち。(本籍：岡山県)
昭和59年 3 月 神戸大学医学部医学科卒業後、厚生省各課、
横浜市衛生局、環境庁を経て、
平成 4 年 7 月 広島県福祉保健部健康対策課長。
＜広島県における疾病予防と健康づくりを担当＞
平成 6 年 9 月 厚生省健康政策局指導課課長補佐。
＜災害救急医療、医療機能評価を担当＞
平成 9 年 4 月 厚生省国立病院部運営企画課課長補佐。
＜全国の国立病院・療養所における情報化を担当＞
平成12年 4 月 茨城県保健福祉部医監兼次長。
＜茨城県における公衆衛生・保健医療行政を担当＞
平成14年 1 月 茨城県保健福祉部長。
＜茨城県における保健福祉行政全般を担当＞
平成16年 4 月 厚生労働省東京検疫所長。
＜東京港等の検疫・衛生業務、輸入食品の監視指導等を担当＞
平成17年 4 月 内閣府参事官(ライフサイエンス担当)。
＜政府全体のライフサイエンスの振興を担当＞
平成19年 8 月 独立行政法人国立病院機構本部医療部長(現職)
＜全国の国立病院における医療の統括を担当＞
・医学博士(岡山大学)
学位論文テーマ
「わが国における悪性新生物の受療率と死亡率との関連」
・日本医療・病院管理学会 評議員・学術情報委員
・神戸大学客員教授・滋賀医科大学客員教授

【専門分野】

公衆衛生行政

【主な著書】

「感染症と予防接種」 (東 山 書 房, 1989) 共著
「臨床内科医マニュアル」 (医 学 書 院, 1992) 共著
「改訂救急救命士標準テキスト」 (へるす出版, 1995) 共著
「21世紀の災害医療体制」 (へるす出版, 1996) 共著
「災害時の地域保健医療活動」 (新企画出版社, 1997) 共著
「地域保健法による新しい地域保健事業の進め方ー保健所と市町村の役割ー」
(日本公衆衛生協会, 1997) 共著
「医療科学 第2版」 (医 学 書 院, 2000) 共著
「ケースメソッドで学ぶヘルスプロモーションの政策開発」
(ライフ・サイエンス・センター, 2001) 共著
「新体系看護学全書 9 社会保障制度と生活者の健康 ④ 関係法規」
(メヂカルフレンド社, 2007) 共著
「2008 看護学入門 5 巻 保健医療福祉のしくみ、看護と法律」
(メヂカルフレンド社, 2007) 共著
「最新医療秘書講座 5 医療秘書概論・実務、医療情報学、医療関係法規」
(メヂカルフレンド社, 2008) 共著

特別講演は14:50～16:20

第1会場(5階大会議室)で行われます。

学 会 日 程

	第1会場（5階大会議室）	第2会場（4階セミナールーム）	第3会場（4階第1会議室）
9:00	総合受付（5階ロビー）		
9:25	開 会 式		
9:30	一般演題 1～2 免疫血清 3～6 生 理 7～10 生 理 11～14 生 理 15～16 生 理	一般演題 17～20 システム・病理 21～24 病 理 25～27 病 理 28～30 輸 血 31～32 輸 血	一般演題 33～36 微生物 37～39 微生物 40～42 遺伝子 43～46 臨床化学 47～49 臨床化学・血液
11:50	技師長協議会総会	輸血セミナー	
12:50	昼 食		
13:30	生理機能検査セミナー	病理セミナー	緊急検査セミナー
14:45	特別講演		
14:50			
16:20			
16:25			
17:00	学会セレモニー・閉会式		
17:30	関信支部定期総会		
17:40	懇親会（戸山サンライズ）		

学会セミナー 一 覧

生理機能検査セミナー（第一会場 13:30～14:45）

「小児期疾患における生理機能検査」

生理検査室業務は多岐にわたっており、幅広い分野の知識が必要になっています。また、成人疾患は元より小児期疾患の診断においても重要な役割を担っています。今回のセミナーでは心電図検査、脳波検査、呼吸機能検査の各分野について、小児期疾患に関する内容を中心にお話していただきます。

座 長：高橋 祥慈（NHO東京医療センター）
演 者：熊沢 哲夫（国立国際医療センター戸山病院）
土屋 邦子（NHO西新潟中央病院）
中村 良幸（国立成育医療センター）

輸血セミナー（第二会場 11:50～12:50）

「輸血療法における諸問題の解決法をさぐる」

輸血療法を行うにあたり、日常遭遇するさまざまな問題の解決法をさぐるということで、血液型検査、不規則抗体検査、技術的知識以外の問題についてお話していただきます。また、演題以外にも問題がありましたら、学会までに下記アドレスへご連絡ください。議題にしたいと考えております。

連絡先：NHO東京医療センター 深澤文子
ffukasaw@ntmc.hosp.go.jp
座 長：深澤 文子（NHO東京医療センター）
演 者：岩崎 康治（NHO埼玉病院）
後藤 信之（NHO相模原病院）
真鍋 義弘（国立国際医療センター戸山病院）

病理セミナー（第二会場 13:30～14:45）

「ホルムアルデヒド管理セミナー
～あなたの施設の対応は～」

ホルムアルデヒド職場安全性基準値の改定通知が今年3月にあり、ホルムアルデヒドの空气中濃度の規制が厳しくなりました。ホルムアルデヒドを扱う医療機関、特に病理検査室では対応が迫られています。今回、関信全施設にアンケートを実施し、本セミナーでは取り扱いの変更概要、法律、アンケート結果報告等をお話していただきます。

座 長：當銘 良也（国立がんセンター中央病院）
演 者：山田 晶（NHO東京医療センター）

緊急検査セミナー（第三会場 13:30～14:45）

「三次救急医療施設 ～日当直時の対応～」

日当直時の緊急検査は多くの病院で実施されていますが、日常業務と異なり日当直担当者が不安を抱く場合も少なくないと思われます。今回、三次救急施設の日当直者の立場から検査業務の現状のほか教育システム、緊急検査項目の内容、トラブル対応等についてお話していただきます。

座 長：林 亮（NHO横浜医療センター）
演 者：藤澤 紀良（NHO高崎病院）
緑川 清江（NHO災害医療センター）
林 元久（国立国際医療センター戸山病院）
吉田 茂久（NHO水戸医療センター）

抄録集冊子とCD配布についてのお知らせ

過去三年間、抄録集のCD化は一定の経費節減効果をもたらし、内容的にも他支部等から高い評価をいただいております。

しかしながら、一方では当初からCDよりも冊子の利便性が高いことが指摘されており、本年6月に開催された地区代表者会議におきましても、以前のように冊子配布を希望する趣旨の議題が複数の地区会より提出されました。

これらのことを踏まえ、冊子の全会員配布の可能性（CDは作成技法を継承するために廃止しない）について検討

を重ねてまいりました。その結果、抄録集内容、ページ数、印刷会社の見直し変更等により、前年度とほぼ同程度の経費で実現可能な見通しが立ち、地区代表者の賛同を得ることができました。

以上のことより、今年度からは抄録集冊子の全会員配布、CDは各施設1枚の配布とすることとなりましたので、ご理解を頂きますと共に、ご承知置き下さい。

（事務局長：渡司博幸）

関信ブロックにおける臨床検査試薬の共同購入



関東信越ブロック事務所統括部医療課
臨床検査専門職

永 井 正 樹

関信ブロックの永井でございます。うとうしい梅雨も明けいよいよ夏本番を迎えておりますが、会員の皆さんにおかれましては如何お過ごしでしょうか？日頃より臨床検査部門の業務運営において、様々な面でご尽力をいただき心より感謝申し上げます。

さて、皆さんもすでにご存じのように、本年10月から関信ブロックにおいても臨床検査試薬の共同購入（共同入札）を実施することになりました。この事業は九州や東海・北陸ブロックで先行して実施され、現在当ブロックをはじめとした未実施のブロックにおいても実施に向けて準備を進めているところでございます。

今回はこの誌面をお借りして、関信ブロックにおける試薬の共同購入について紹介をさせていただきたいと思います。

まず試薬の共同購入方式について理解するには、現行購入方式（以下現行方式）について復習し理解しておく必要があります。現行方式では各施設が入札公告をして複数のディーラー（以下問屋）に対して入札を行ない、落札によって納入金額と問屋を決定し契約を締結しています。したがって、同一の試薬を複数の施設で購入しても、施設によって納入価格が異なり当然のことながら契約している問屋も均一ではありません。

一方、共同購入方式は、個々の施設で行っている入札業務をブロック事務所にすべて委嘱し、その委嘱に基づいてブロック事務所が施設の代理で入札を一括に実施するというものです。当ブロックの共同購入では、管内のエリアを3エリアに分割しておりますので、3エリアに対してそれぞれ入札を行い、エリア毎に単一の納入価格と問屋を決定いたします。その後、各施設は品目毎に自施設が該当するエ

リアの入札で決定された問屋と納入価格で契約を締結することになるわけです。

図1に現行の購入方式から共同購入方式に移行する際の手順を図式化しましたので、この例に則って再度説明します。

まず、管内のAからFまでの6施設にてX社のTPキリブレーターという同一の試薬を購入する場合を想定しました。また、その6施設も共同購入方式と同様に3エリアに分割しました。現行方式では前述したように、A～Fの個々の施設で入札を実施するので施設毎の納入価格（¥1,005～¥1,300）と問屋（M～R）は同一ではありません。その後A～Fの施設からの入札委嘱に基づいてブロックでエリア毎の入札を行った結果、1エリアではNディーラーが¥1,000で、2エリアではRディーラーが¥1,050で、3エリアではOディーラーが¥1,020でそれぞれ落札しました。各施設はこの条件でそれぞれ契約を締結するわけですから、1エリアに該当するAとBの施設はNディーラーと¥1,000で2エリアに該当するCとDの施設はRディーラーと¥1,050で、3エリアに該当するEとFの施設はOディーラーと¥1,020でそれぞれ契約を締結するというわけです。

共同購入は各施設で現在使用している試薬の入札業務をブロック事務所が一括して代理で行い、その入札結果に基づいて各施設が契約を行うというものですから、**施設で使用する試薬の変更や制限は一切生じません**。共同購入を実施することにより、自施設で使用している試薬を変更しなければいけないと誤解している方がいるようですが、そのようなことはございませんので正しく理解して下さい。以上、臨床検査試薬の共同購入について述べさせていただきましたがご理解いただけましたでしょうか？

この事業は今後の我々の方向性を決定するうえでも非常に重要なものであります。紙面の都合上、これ以上詳細に申し上げることはできませんが、この件に関して何かご質問やご意見のある方は、遠慮なく小職まで連絡願います。

現行購入方式	X社のTPキリブレーター を購入する場合	共同購入方式
A施設(1エリア)	¥1,010 Mディーラー	A施設(1エリア) ¥1,000 Nディーラー
B施設(1エリア)	¥1,100 Nディーラー	B施設(1エリア) ¥1,000 Nディーラー
C施設(2エリア)	¥1,005 Oディーラー	C施設(2エリア) ¥1,050 Rディーラー
D施設(2エリア)	¥1,250 Pディーラー	D施設(2エリア) ¥1,050 Rディーラー
E施設(3エリア)	¥1,170 Qディーラー	E施設(3エリア) ¥1,020 Oディーラー
F施設(3エリア)	¥1,300 Rディーラー	F施設(3エリア) ¥1,020 Oディーラー

共同入札	
1エリア	¥1,000 Nディーラー
2エリア	¥1,050 Rディーラー
3エリア	¥1,020 Oディーラー

図1: 現行の購入方法と共同購入との比較

連絡先

千葉医療センター（水曜日以外）
電話：043-251-5311（内線：2654）
E-Mail：mnagai@chiba.hosp.go.jp

関信ブロック（毎週水曜日）
電話：03-5712-3106
E-Mail：nagai-masaki@rho.hosp.go.jp



平成19年度 地区代表者会議議事録 (要 旨)

日 時：平成20年6月21日（土） 13:00～14:00
場 所：国立がんセンター中央病院 管理棟 1 階
第3会議室
出 席 者：三浦、吉田、渡司、北沢、木村、大谷、
川村、益田、深澤、小松、竹田
東京・埼玉地区技師長会：上原 信夫
神奈川地区会：今村 ちさ
茨城地区会：佐藤 本則
新潟地区会：山田 清春
栃木地区会：猪原 玉富
長野地区会：若林 洋志
群馬地区会：大脇 佳則
山梨地区会：川畑 久
千葉地区会：名賀 秀己
関信ブロック臨床検査専門職：永井 正樹
(敬称略)

1. 開会の挨拶（吉田副支部長）

2. 支部長挨拶

本部で例えば全国理事会と同様な重要な会議である。重要な案件があれば年2回の開催でも良いのではないかと考えている。今後は臨床検査専門職に会議のメンバーとして出席していただき、伝達事項や最新情報を提供していただければと考えている。

3. 平成19年度支部理事・地区代表者自己紹介

4. 関信支部経過報告

事務局、渉外部、学術部、広報部より経過報告が行われた。

5. 各地区会経過報告

各代表者より組織状況及び活動状況について経過報告が行われた。

6. 地区提出議題・支部提出議題

1) 学会抄録集とCDについて

(東京・埼玉地区技師長会 上原氏)：

支部学会抄録集の冊子化について討議願いたい。会務運営上、経費削減等で問題はあるかと思うが、学問・技術研鑽や知識の共有に重要な役割を果たすものと考えられる。是非、会員全員に冊子の配布をお願いしたい。

(栃木地区会 猪原氏)：

CD化については十分に理解しているが、抄録を抜粋した印刷物等があれば会員にとって有益ではないかと考えている。

(神奈川地区会 今村氏)：

各個人で印刷を行うのは手間がかかり現実的ではないという意見が多い。CD化については十分に理解出来るが、従来の冊子に戻して頂きたい。

(三浦支部長)：

同様の意見は各地区会等でもよく耳にしており見直しを考えていた。本来であれば総会に諮り決定すべきかもしれないが、先送りにしないためこの場で賛同が得られるなら実現したいと考える。

(茨城地区会 佐藤氏)：

予算的に問題ないのか教えてほしい。

(益田学術担当理事)：

昨年度はCD700枚、抄録集100部を作成した。本年度は抄録集700部、CD100枚として検討しページ数削減や印刷会社の選定等で、見積もり段階だがほぼ同程度の経



費で作成出来る予定である。

(茨城地区会 佐藤氏)：

冊子を全員に配布ならば、CDの存在意義や経費削減の観点から見て作成するメリットはあるのか。

(益田学術担当理事)：

冊子はページ数削減で、必要最小限の情報についてしか掲載出来ない。CDにはアンケートや規約等全ての情報が納められているのでCDの存在意義はあると考える。

(三浦支部長)：

CDそのものの評価は高いし作成技法は継承していき

たい。

(長野地区会 若林氏)：

冊子作成費用は広告掲載料で賄っているのか、また冊子には広告が掲載されるのか。

(益田学術担当理事)：

広告掲載料は学会運営費と合算し、抄録作成予算を計上している。また冊子にも広告は掲載する。

(三浦支部長)：

他に異論がなければ本年度の支部学会については抄録集700部、CD100枚を作成することで承認をお願いしま

2) 支部学会・研修会等について

(栃木地区会 猪原氏)：

関信支部勉強会について、参加出来ない会員のために資料やビデオ等の記録についての提供や配布資料等についてホームページに掲載していただきたい。講師の許可や参加者の減少等の問題もあるかと思うが検討いた

きたい。

(三浦支部長)：

参加して頂くのが最良である。資料を提供できると公にすると何かと難しい問題が生じる。

(吉田副支部長)：

依頼している講師の方々にも表題によっては迷惑が掛かる恐れもある。ホームページ掲載についても現在セキュリティが無く不特定多数のアクセスが可能のために難しいと考える。しかしながら可能な範囲でホームページでの掲載や情報提供も今後考えて行きたい。

(茨城地区会 佐藤氏)：

特別講演・学術講演を一本化し、あるテーマについて地区からの代表者によるディスカッション方式としフロアーと相互討論できるものにしてはどうか。また民営化後も支部の勉強会、交流会を引き続き実行して頂きたい。

(三浦支部長)：

本年度の学会においては学術講演を廃し各種セミナーと言う形式にしている。また民営化後についても関信支部がある限り継続して行きたいと考えている。

(新潟地区会 山田氏)

学会演題数が多くてもポスター発表ではなく、すべての演題において口頭発表としてもらいたい。

(三浦支部長)：

その通りと思う。ここ数年、ポスター発表はしていない。

(群馬地区会 大脇氏)

各種認定資格取得に向けた研修会の開催日及び時間について、可能であれば土日の2日間の開催等を検討して



頂きたい。

(吉田副支部長)：

参加人数や会場等の問題もあるが検討して行きたい。

(長野地区会 若林氏)：

支部主催の各種会議・研修会・退職者送る会など、たまには、地方での開催にしたらどうか。長野、新潟地区会員の苦勞がわかると思う。また他地区の勉強会に参加出来るように情報提供もホームページ、支部ニュースで行ってはどうかと言う意見もある。

(三浦支部長)：

支部学会は東京以外では1回だけ前例がある。各地区代表者の意見も伺いたい。

(茨城地区会 佐藤氏)：

地方で開催する場合、東京で開催するよりも時間が掛かってしまう事も考えられる。

(東京・埼玉地区技師長会 上原氏)

以前よりの懸案事項である。長野、新潟等の地区には優秀な方々がおり非常に努力している。数々の問題はあろうが、地方での開催が出来ないか。

(長野地区会 若林)：

地区には優秀な方々がいるので、地区より情報を発信し参加を募るのも一案と考えている。

(山梨地区 川畑氏)

東京で行われる研修会に参加する事は諸条件から限られている。従って地元の検査技師会等に参加せざるを得ないのが実情である。

(三浦支部長)：

例えば、群馬・長野・新潟等の3地区会合同で研修会を企画して、それを支部としてバックアップするのも一案かと思う。来年度はそういう新しい試みも考えてみたい。

(吉田副支部長)：

他地区の会員が参加可能な研修会の情報があれば提供して頂きホームページを活用していただきたい。

3) その他

(神奈川地区 今村氏)：

24時間勤務体制・2交代勤務体制に於ける人員の確保、また2交代勤務体制を行っている施設の実態を知りたい。

(三浦支部長)：

本部会報には水戸医療センターの状況が掲載されている。今回の支部学会で緊急検査セミナーとして内容に24時間勤務体制を盛り込んだものを企画している。是非聴講されたい。

(神奈川地区 今村氏)：

認定資格取得技師への諸手当の支給について困難な面は多々あると感じているが、認定資格取得技師については各種学会に所属し維持・継続に経費がかかっているのが現状である。

(三浦支部長)：

手当については国臨協本部、技師長協議会共に各関連部署に提言活動を行っており将来的には実現するのではないかと考えている。

(新潟地区 山田氏)

認定資格取得者の人事の考慮と手当を考えてほしい。認定資格によっては指導医のいる病院に勤務していない

と更新が難しくなる現状があるため、人事異動の際はその点を考慮していただけないか。また主任発令条件の規定を見直してほしい。定数とかではなく、実績や能力を評価して「主任」を発令できるよう改善してほしい。

(三浦支部長)：

人事に関する事は専門職にお願いしたい。独法化後は定数という概念はおかしいと院長協議会会長が言われていた。

(永井専門職)：

主任発令条件については、概念・規定等で明確なものはないので前向きに検討したい。認定資格取得者の考慮については限られた枠の中の人事になるので必ずしも期待通りには行かないが、本来業務に支障のない様に考えて行きたいのでご理解を頂きたい。

(長野地区会 若林氏)：

転勤に伴う宿舍の配慮をお願いしたい。

(三浦支部長)：

支部としての対応は難しいが、どのぐらいの方が困っているのか一度実態把握も必要かと思う。

(永井専門職)：

各施設の問題でもあるが、実態調査について検討してみたい。

(茨城地区会 佐藤氏)：

検査技師の母体である日臨技・地臨技との連携について積極的に関わっていくべきではないかと考えている。

(三浦支部長)：

役員等に参画出来る人材の育成を考えていかななくてはならないと考える。

(永井専門職)：

日臨技との連携は本部で行うか支部で行うかの違いはあるが前向きに考えて行かなければならないと思う。

(東京・埼玉地区技師長会 上原氏)

昨年度、成育医療センターで開催した技師長会主催臨床検査研修会について、今年度はどうするか討議する予定である。

4) 地区会助成金について

(茨城地区会 佐藤氏)：

運営上、活動の幅が広がり大変有用であり来年度もお願いしたい。

＜各地区会についても同様の意見であった。＞

(山梨地区 川畑氏)：

勉強会として昨年は専門職に来て頂いたが交通費もままならない状態である。今年度もお招きしたいと考えている。同じ会費を納めているので他地区と同様に恩恵を受ける事を希望する。

(三浦支部長)：

地区代表者会議であるので各地区の了承を頂ければ会員数を加味し山梨地区に特例として1万円の助成を行いたい。

＜各地区代表者に異論なく承認された。＞

※第36回国臨協関信支部学会の地区会特別優秀賞選考委員と特別優秀賞選考委員長の選任が行われ、選考委員には栃木地区・山梨地区代表者が、委員長には甲府病院の川畑技師長が選出された。

7. 永井専門職挨拶

日頃より、会員の皆様のご協力に感謝したい。地区代表者会議は地域独自の悩みや意見を聞き、組織としてさらに良い方向に導くためには重要な会議である。これから試薬の共同購入など変革期に入るが、こういう時こそ全会員の一体感が必要であり、それが大きな力になると考えている。現在、各種調査を行っておりご迷惑をおかけしているが、実態を正しく把握するためにデータの重みを踏まえ調査にご協力願いたい。試薬の共同購入は入札品目表作成の段階にあるので、引き続きご協力をお願いしたい。

8. 閉会の挨拶 (渡司事務局長)

以 上

(書記：竹田信邦、北沢敏男)

関信支部主催症例検討会・症例報告



国立国際医療センター 戸山病院

竹 内 英 規

平成20年5月31日(土)国立国際医療センター戸山病院にて、国立病院臨床検査技師協会関東信越地方支部主催の症例検討会が開催されました。

症例は「顔のむくみを指摘され来院した1症例」、「ふらつきを主訴に来院した1症例」の2症例を臨床症状と検査所見から推定される疾患、及び追加すべき検査について検討しました。症例の解説は、内分泌代謝科岸本美也子先生にして頂きました。症例1の「顔のむくみを指摘され来院した1症例」は、クッシング症候群でした。主訴の顔のむくみ(満月様顔貌)が見られ、身体所見から大腿、下腿に紫色の皮膚線条、顔面及び前胸部など躯幹のざ瘡、無月経、血算での好中球増加、好酸球・リンパ球減少があり、ホルモン異常のクッシング症候群を疑った追加検査についてフローチャート方式で詳しい解説がありました。治療方針の確定に必要な検査の進め方として、尿中遊離コルチゾールは過剰産生、夜間血中コルチゾールは副腎からの日内変動の消失を確認。DEX(デカドロン)8mg負荷(抑制)試験はACTH依存性クッシング症候群(下垂体、異所性)かACTH非依存性クッシング症候群(副腎)の確認が必要であり、症例では、コルチゾールとACTHの抑制が有り(ACTH依存性クッシング症候群)、更に異常部位の確認として、画像診断(MRIでの下垂体腫瘍の検出率は40~60%、また健常成人の約10%に下垂体偶発腫瘍を認める)とCRH負荷試験(ACTHの1.5倍以上の増加反応で下垂体性、異所性ACTH産生腫瘍では一般的に無反応)の併用が必要と説明され、岸本先生の解説は、今回の症例治療で下垂体腺腫摘出術後、経過観察でホルモンのフィードバックCRH-ACTHが長期に抑制されており、すぐには自立性が回復しない為、ハイドロコチゾンの補充治療法が当面必要となり完治するまで時間がかかると話されました。次に症例2の「ふらつきを主訴に来院した1症例」は、インスリノーマでした。先生の解説は、主訴にて登山中のふらつき、浮動感、目のかすみから、疾患として低血糖発作、内耳機能障害、頭蓋内病変、起立性低血圧、不整脈の鑑別。検査所見では、随時血糖:52mg/dl、HbA1c:4.3%から考えられる低血糖発作時の確認として、糖尿病薬内服やインスリン注射の有無、肝不全および腎不全の有無、胃切除既往の有無、ホルモン値(Cペプチド、インスリン、コルチゾール、ACTH、TSH、F-T4)が必要であり、本症例では低血糖時、高インスリン値を示しインスリノーマを疑った追加検査について詳しい解説が続く、血糖値とインスリン、Cペプチドの存在検査として、絶食試験、グルカゴン試験、75gOGTT。インスリノーマの局在診断として、腹部超音波、CT、MRI、及び選択的動脈内カルシウム注入試験(膵臓に存在する腫瘍の栄養血管支配域の確認)が必要との説明でした。インスリノーマの治療は、90%が良性で機能温存のため腫瘍の外科的切除により根治されるとのお話で、臨床の現場において検査から治療までの流れに大変興味深く感じました。今回、症例提示していただいた内分泌代謝科の先生方に深く感謝いたします。

症例検討会に参加して



NHO相模原病院

中 野 和 明

平成20年5月31日(土)国立国際医療センター戸山病院国際協力局5階大会議室において、国臨協関信支部主催の症例検討会が2年ぶりに開催されました。当日は小雨が降り足

下の悪い中78名の会員が集まり活発な意見が出されました。

今回の症例提示は国立国際医療センター戸山病院で同院内分泌代謝科の岸本先生に解説をしていただきました。先生はこの日に備えて美容院に行ってきたそうで我々に負けず劣らずの気合いが入っていました。通常の症例検討会では病理組織やエコー画像を見てそこから進んでいくことが多い中、今回はラボデータ、患者の症状から判断していく内容で、検体検査を担当している私にとって検査データの重要性を再認識させられました。

症例1はCushing症候群、症例2ではインスリノーマの所見が提示され、それぞれの検査の進め方、治療等を判りやすく解説していただきました。この2症例で最も重要な検査がホルモンの検査で、症例1ではコルチゾール、症例2ではインスリン、Cペプチドがキーポイントでした。これらの項目はほとんどの検査室では行われておらず、外注検査項目ではないでしょうか？検査室内でのデータがすべて正常だからといって油断は出来ません。外注に出された検査データも気に止めておかななくてはならないことを痛感しました。

症例検討会のあと、同院内分泌代謝科医長、高橋先生による「メタボリックシンドローム特定健診と臨床検査」の講演を行っていただきました。今年4月から特定健診が始まりましたが、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の発見の意義、外国と日本における基準値の違いとその理由等を解説していただき大変参考になりました。

最後になりますが、症例提示、解説をして頂いた戸山病院の方々並びに症例検討会を企画、開催して頂きました関信支部役員の方々に深く感謝申し上げます。





臨床検査研究会からの報告

NHO水戸医療センター 小 川 勝

平成20年6月7日(土)国立がんセンター中央病院にて、平成20年度第1回臨床検査研究会が開催されました。

はじめに永井専門職より連絡事項がありました。NHO施設経営収支状況、医師会精度管理状況、認定資格取得者状況等NHO施設の現状分析から、検査試薬・医療消耗品共同購入、各種実技研修、人材育成研修、等々今後の具体的な計画について話されました。

また、平成20年度独立行政法人国立病院機構年度計画より業務委託の文中"ランチラボ"の文字が消えた。これは大変喜ばしいことであるが、今後この言葉が復活しないよう更なる努力が必要である。と強調されていました。

次に深谷赤十字病院検査部技師長の原繁一先生による「ランチ・FMSからの脱却による検査室再建の取り組み」という講演がありました。

昭和52年4月病院新築移転時にFMS・ランチが導入され、平成16年8月に自主運営となるまでの経緯、どのようにしてFMSから脱却したかを詳しく話していただきました。

FMSから脱却するために検査試薬、消耗品等のコスト意識を徹底し、より安い試薬、消耗品を使用する。信頼性の高いデータをより早く臨床に提供する。そして何より職場の管理者は病院幹部にアピールできる能力が必要である、と話されました。検査依頼から結果報告までの所要時間(Turn Around Time)を短縮するためのシステムをつくり(TAT管理システム)、TATが延長した場合どの時点で延長したかを明らかにすることで、さらにTATを短縮することができたそうです。そして、今後の課題として検査結果の迅速報告の推進、検査管理能力の育成、検査技術の専門性の確立、診断寄与率の向上、チーム医療への積極的な取り組みを挙げていました。

今後病院に必要な検査室を構築するための参考にしたいと思います。

最後に、多忙の中ご講演いただきました原先生、永井専門職に深謝いたします。

輸血研修会に参加して

国立成育医療センター

上 野 晴 菜



平成20年7月26日に、がんセンター中央病院で行われた国臨協関信支部主催の輸血研修会に参加させていただきました。

今回は株式会社イムコアの佐々木先生が、輸血検査を行う上で問題となることやその解決方法について講義をしてくださいました。

「ABO血液型でオモテウラ不一致のとき、血液型確定のための検査法と考え方について」

「オモテウラ不一致のときや亜型のときの輸血適合血の考え方について」

「緊急時の適合血の選択と対応について」

「自己対照陽性の原因と考え方について」など、自分一人のときに会ったら悩んでしまうような結果の解釈について、日常検査で輸血に携わっていない人でもわかりやすい言葉で説明してくださいました。

私は日常検査でも輸血検査をしています。採用になってからまだ1年未満の新人なので、知識も浅く難しい問題にもあまり直面したことがありませんでした。そのため、

当直中や一人の時にオモテウラ不一致の血液型や、緊急輸血があった時の不安がかなりありました。今回の講義で、問題が起きた時どのように対処したら良いかなどを学ぶことができ、とても勉強になりました。中でも、自己対照陽性の原因と考え方についてはよく悩んでいたもので、補液が原因のときは、採血のタイミングや、補液をしていない方の腕から採血することで防ぐことができることなどを知ることができてよかったです。

これから輸血検査に携わっていく上でこういった問題に直面することも多いと思うので、その時には今回学んだことを生かして迅速に対応できるように日々精進していきたいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中講義をしてくださいました株式会社イムコアの佐々木先生、そして輸血研修会を開催してくださいました関信支部の役員の皆様、本当にありがとうございました。次回も輸血研修会を開催して下さる機会があれば、ぜひまた参加したいと思います。

編集後記

皆さん運玉占って知っていますか？今回、親戚の結婚式に出席するため、家族3人で夏季休暇を利用し鹿児島に帰郷した。せっかく九州まで足をのばしたのだから旧所名跡巡りをしようと、宮崎県南部日南市の日向灘に面した鶴戸神宮を訪ねてみた。この神社は運玉占いで有名で、宮崎県東国原知事のお勧めスポットの一つでもある。素焼きの約2cmの玉を男性は左手、女性は右手で願いを込めながら運玉を5m崖下の亀石と呼ばれる岩の窪みに命中させると願い事が叶うというものだ。しかしこの運玉(5個で100円)なかなか窪みに入れるのは難しい。運よく最後の1投が入り成功したものの、投げ入れるのに一生懸命で願いを込めるのを忘れてしまった。あ…しまった。結局のところ運に頼らず一步一步着実に、やっぱりそれが大切。今回の運玉にて得た教訓、これが御利益かもしれない。皆さんも思い出に残る夏季休暇を過ごして下さい。

副支部長 松林 守



人 / 事 / 異 / 動

【平成20年7月1日付 異動者】

氏 名	新施設名	役職名	旧施設名	役職名
内 田 栄 二	神奈川	主任技師	国際医療戸山	技 師
小 峰 梨 沙	国際医療戸山	技 師	精神・神経センター	技師(非常勤)
黒 木 政 宏	精神・神経センター	技師(非常勤)		

【平成20年6月30日付 辞職者】

氏 名	施設名	役職名
栗 崎 ひろみ	神奈川	主任技師 辞 職

地区会だより

茨城地区会だより

NHO水戸医療センター 渡 辺 力

平成20年5月10日（土）、水戸市の産業会館にて、第22回関信支部茨城地区会学術講演および定期総会が開催されました。当日は会員37名のもと関信ブロックより永井臨床検査専門職、関信支部より三浦支部長、吉田副支部長のご出席を頂きました。

学術講演では水戸医療センター院長の園部眞先生より「これから検査技師に求めること」と題して検査技師発足の歴史から始まり、病院間での検査室の比較・実態、検査技師から考える病院経営と幅広い内容のものでした。検査科で待っているのではなく、自ら外に出て行き活躍の場を広げて欲しいと、実例を交えてお話を頂きました。具体的に何から始めて行けばよいのかが理解でき大変勉強になりました。又、園部先生には何度も検査科に足を運んで頂きました。検査技師および検査室の現状を更に理解して頂いた事は当検査科にとっても貴重なものになりました。

その後、永井臨床検査専門職より「業務指導及び連絡事項」と題した各認定資格取得状況や医師会精度管理報告等のお話を頂きました。10月より始まる検査試薬共同購入の説明では会場からも活発な意見交換が行われ、会員一人一人のコスト節減に対する意識の高さの表れが感じられました。

講演終了後、茨城地区会定期総会では会員より平成19年度経過報告、会計報告、会計監査の承認を受け、引き続き平成20年度事業方針を検討し承認されました。

その後、居酒屋「串道楽」に場所を移し、会員相互の親睦を深めお開き……ではなく、茨城地区会恒例？第2回カラオケ大会が会員多数の中、サプライズ誕生会の企画もあり盛大に行われ小雨で北風が吹く中、エネルギーな歌声が水戸の夜街にいつまでも響いていました。



平成20年6月5日（木）茨城東病院カンファレンスルームにて茨城地区会第1回理事会および引継ぎが行われました。理事会では役員の役割分担や地区会での年間予定を検討しました。

その後、東海分室にて地区会役員の親睦会が開かれ、茨城東病院院長の深井志摩夫先生にも参加して頂き、現在の病院経営、統計について等を分かり易く、ときには冗談を交えてお話しして頂き大変有意義な時間でした。

東海分室＝とにかく値段が安い！ボリューム満点！お近くの際はぜひ。詳しくは佐藤会長まで。



ビア・パーティーに参加して

NHO水戸医療センター
下 重 さゆり

梅雨も明けた平成20年7月26日（土）、国臨協関信支部主催のビア・パーティーがアリス銀座店にて開催されました。その日はとても暑く、絶好のビア・パーティー日和となり大勢の会員の皆様が参加していました。

三浦支部長の乾杯とともに会は盛大にスタートしました。つづいて永井専門職より、「ぜひこの場を利用して施設間の情報交換を行いできるだけたくさんの方々とコミュニケーションをとってほしい」とお話がありました。

お世話になった諸先輩方や友人に久しぶりに再会でき、学会や研修会で顔を合わせることはあってもなかなかゆっくりとお話する機会がなかったのですが、このビア・パーティーを通じてたくさんの方と交流を持つことが出来ました。

おいしい料理を頬張り、絶え間なくグラスに注がれていくビールを飲んでいるうちに、施設紹介が始まりました。

くじ順で各施設の代表者が自分の病院の特色や検査科の

紹介を行っていきます。他の施設の特徴や、こういった環境の場所にあるのかなどといったお話を聞くことができ、とても貴重なひとときとなりました。

今回ビア・パーティーには初めて参加させていただいたので、どういうパーティーなのか皆目見当つかず少し不安な気持ちで会場に向かいました。しかし会員の皆様と話していくうちに緊張もとけて、パーティー終了間際には少し名残惜しい気持ちにもなりました。その後、銀座のネオンの中に消えて行く方々も多くいたようですが、私は後ろ髪を引かれる思いで水戸への電車に飛び乗りました。こういった会を運営していく上でたくさんのご苦労があるのではないかと思います。今後もこのような会を開催していただけたら嬉しく思います。

最後になりましたが、このような会を主催していただいた、国臨協関信支部の役員の皆様、どうもありがとうございました。



投稿者:下重さゆりさん